



(酒田)

山形・安田遺跡

- 1 所在地 山形県酒田市大字安田字芳岡
- 2 調査期間 一九八一年(昭56)六月～七月
- 3 発掘機関 山形県教育委員会
- 4 調査担当者 佐藤庄一・野尻 侃
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 平安～室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

安田遺跡は、国指定史跡「城輪柵跡」の南西一・五kmに位置し、標高八～九mの河間低地中の微高地に所在する。本遺跡は通称地藏

寺部落内の東半分を含む広い範囲にまたがること予想されるが、発掘調査は農林事業に係わる地域に限定して行った。調査の結果、掘立柱建物跡四棟、土壇六個所などの遺構が検出されている。木簡は、発掘区の北西

部の遺物包含層から二点検出しており、周囲にはとくに落ち込みのような遺構は認められなかった。

8 木簡の积文・内容

木簡は、柿経の断簡が二点検出されている。

(1) \times \square 聞是經典如説循行 (87) \times 11 \times 0.3 061

スギ材。上・下端欠損。

(2) 「故世世得善知識其 \times (102) \times 11 \times 0.9 061

スギ材。下端欠損。上端圭頭。

(1)は、「妙法蓮華経」卷第七、嘱累品第二二に、「後五百歳中若有人聞是經典如説循行」という行があり、その一部を示す。

(2)は、「妙法蓮華経」卷第八、陀羅尼品第二六に、「故世世得善知識。善知識能作佛事示教」という行があり、その一部を示す。

木簡の時期は、包含層中の出土であるため断定はできないが、伴出した珠洲系陶器などから鎌倉～室町時代頃に想定される。

9 関係文献

山形県教育委員会 『安田遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文

化財報告書第56集

一九八二年

(佐藤庄一)